

所属・資格 ドイツ文学科・教授

申請者氏名 浜野 明大

研究課題		中世ドイツ語圏文学作品における諸問題の再考とミヒャエル・ハネケの映像分析
報告概要	研究目的 および 研究概要	中世ドイツ語圏文学作品でこれまで議論されてきたテーマは多岐に渡る。しかし、その議論が果たして本当に意義のある結論に至ったのかは精査する余地があると言える。そこで本研究では、とりわけドイツ語圏において議論されてきた諸問題をもう一度精査し、新たな観点での再考の可能性を模索する。また、オーストリアの映画監督であるミヒャエル・ハネケに関する最新の研究書などを蒐集し、この映画を多角的に分析することを試みたい。
	研究の 結果	本年度は、主にロシュトック大学から依頼された「和歌とミンネザング」に関する論文執筆に多くのエフォートを費やすこととなった（2022年9月に依頼者へ提出し、2023年にドイツで刊行予定）。この作業後、ようやく新たなテーマとなる歌謡写本 <i>Carmina Burana</i> 研究に着手することができた。また、オーストリアの映画監督であるミヒャエル・ハネケに関する最新の研究書などを蒐集し、この映画を多角的に分析することを試みた。
	研究の 考察・ 反省	本年度は、ロシュトック大学から依頼された「和歌とミンネザング」に関する論文執筆を9月15日の締め切りまでに終えられたことが大きな成果だったといえよう。ただ、その論文の執筆に大部分の研究エフォートを費やしてしまったことは否めない。その結果、2022年の新たなテーマとしていた歌謡写本 <i>Carmina Burana</i> の研究には多くの時間が避けなかったため、時間配分をもう少し熟慮すべきだったと反省している。また、2本のドイツ語論文校正作業が同時期にやってくるのではないかと危惧しているが、これは予測不可能である。準備を怠らず、出来るだけ新たなテーマの研究の妨げとならないようにしたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	昨年度マクデブルク大学で行われたコロキウム <i>Interdisziplinäres Colloquium zur altniederdeutschen Sprache, Literatur und Kultur (9. - 12. Jh.). Sektion IV: Altsächsische Genesis im literatur- und kunstgeschichtlichen Kontext.</i> Akihiro HAMANO: Text und Bilder in der Altenglischen und Altsächsischen Genesis -Eine Untersuchung zu Cod. Julius 11, Oxford-Altsächsisch. 2021年9月21日-24日/Otto von Guericke University Magdeburg Germany の刊行 <i>Ergänzungsbände zum Reallexikon der Germanischen Altertumskunde, Hrsg. von Sebastian Brather, Wilhelm Heizmann und Steffen Patzold, De Gruyter, Berlin/ New York 2023</i> 作業が遅れているのと、ロシュトック大学の退官記念号へ論文は提出は終えたが刊行は後日になるため、ここで報告する研究成果物は年度を跨ぐこととなる。